

# 三春町商工会 青年部会報 第13号

# 礎

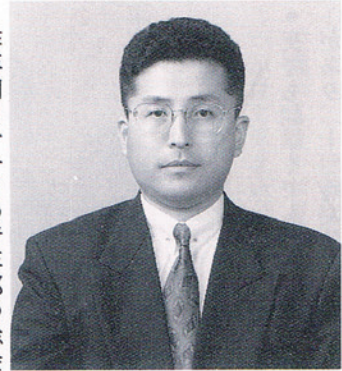
いしづえ

発行責任者 大内 幸一  
発行 三春町商工会青年部  
総務委員会  
委員長 吉田 仁一  
発行日 平成8年3月15日

## 青年部の

## 活動について雑感

部長 大内 幸一



昨年四月十一日の青年部の総会にて部長という大役を引き受けてからあっという間に一年近くが過ぎようとしております。

思ったより多忙な一年間でありました。何か特別新しいことにチャレンジしたわけでもなくて、今迄の先輩が行ってきた事業を継続してやっているだけなのに、なぜこんなに忙しいのかと思う今日の頃です。

人は忙しければ忙しい程時間の使い方が上手になって仕事もうまくゆくという方がいらっしやいました。私のそれは全く逆で消防の現役が終わり一年間だけはほととしましたがこの忙しさは最近異常に感じられます。物は考えようでいくら続けたくても後一年で四十才の定年でやめなくてははいけませんし一生の内二度とこない二年間でもあり残りの任期を精一杯頑張るつもりです。前置きが長くなりましたが、最近ではみなさんともご存じのように我々商工業者を取巻く環境は日に日に厳しさを増し

ていくばかりで、小さな三春町の中にあっては大型店の出店ラッシュ及び営業時間の延長等々いい話は聞きません。このまま時代の流れに飲み込まれてしまうのでしょうか。それで良いのでしょうか。

良いはずはありません。バイパスの開通、三春ダムの完成にとまなうさくら湖周辺の開発、県道拡幅による上大町の中心商店街の整備等々我々の回りも数年で目まぐるしく変わろうとしています。今こそ青年部の若さと行動力で商売に結びつけようではありませんか。

今商工会では「小規模事業活性化ビジョン」というのを一年掛りで作成しております。商業・工業・観光の三つの分野でこれからあるべき指針を作り、二十一世紀に向かって我々商工会が（青年部が）進むべき道を見いだすヒントになってくれそうです。しかし自分自身がアクションをおこなうければ何も変わらないのも事実です。

我々青年部の部長がやらなければならぬことはたくさんあります。さてなにかからやっというかわからないというのが本音ですが、各委員会で行うことになっている事業を確実に実行し、なおかつ各人の本業の仕事を進めに行っていくしかないと思います。本来商工会青年部のなすべき役割というものは商工業者の育成というのが一番の目的であると思うのですが、現実的には他の様々な団体とどこがどう違うのかという程違わなくなっている様に思います。今の活動以

上の事をやるのはかなり難しいのでしょうが商工会の中の青年部に入って良かったと思えるようなそんな団体になればと思います。福島県の中には百余りの商工会青年部がありますが、部員数が七十人いる所は二つくらいしかなくほとんどの所は十人、二十人位しかいません。まして委員会制や支部制をとって活動しているところも数少ないのです。それだけでも三春町の商工会青年部は恵まれていると思われまます。部員の減少はかなり問題にはなっているのですが、我が町はかろうじて部員数が横這いで推移していますので各支部の役員の方々の苦勞の賜と感謝致しております。

現在経営対策委員会が中心となつて行っている三春らしさを取り入れたモニメント作りもぜひ成功させて今後の活動のはずみとしたいと思ひます。委員会の集まりに出席させていただいて思うのは一度も出席されていない部員の方がいらっしやるのはとても残念でありません。忙しいのは都合をつけて出たいものです。

青年部でなければ得られない情報や経験できないことなどもあると思います。自分の仕事以外の業種の方々の話しや苦勞話などを聞けるのも青年部ならではの楽しみか。今我々がこの不景気の世の中で考えなければならぬのは業種から業態へと目を向けることではないかと思ひます。専門店

の専門業種でやっていけるのはもう昔の時代の話です。これからは商も工も業態でとらえていかなければ生き残れない時代だと思ひます。うちは何屋だからとか代々何でやってきたからと言っている事業所はほとんど先細りになっていくと思ひます。プラスαのものを

見つけて取り込むことがこれからの時代大事なのではないでしょうか。お父さんが社長さんであれば早く仕事上の実権を自分の手に握れるように日夜努力し、又自分の後継者を作るようにする。そうしなければ何のために仕事をしているか意味がありません。三春町に不足しているのはそんなところではないでしょうか。

又息子が四十にもなっているのに何の権限委譲もしていない社長（父親）さんを見るにつけて息子も悪いが親もどうかと思ひます。世代交代はいつかは避けられないものです。早く世代交代ができた所程事業は伸びているように三春では思われまます。声を大にして「息子さんに仕事の権限委譲をお早めに!!」青年部の話とは脱線してしましますが家族の理解がないと活動はできませんので、特に結婚なさっている方は奥さんの理解を得られるよう日頃からコミュニケーションをよくとるようにしていただきたいと思います。いずれ我が身です。自分は関係ないと思ってもやがて順番で本部役員をやらなければならない時がきつとくるはず。その時になってジタバタしないようにしましょう。



# 第2回座談会

青年部 若妻

本音とたてまえ

「こんなはずじゃ

なかった!!」

十二月に入り、そろそろ「礎」製作の準備に入らなくてはならなくなりました。「礎」の特集記事は何を掲載すれば? 総務委員の思案の末に、昨年に続き座談会を開催しようとした。今回は青年部新入部員ではなく、部員を影・日向で支える奥様方の本音を討論してもらおうこととなった。

平成八年一月十九日 金曜日  
午後一時より三時 大藤屋

青年部副部長 松本 充弘  
総務委員長 吉田 仁一  
総務委員 松本 哲郎

奥様方 高野 信広  
柳 沼 宏子  
(高柳自工)

小林 朗子

## 事務局

商工人の妻としての雑感

## プライバシー保護

- 夜でも朝早くでも仕事がくる時があり二十四時間仕事をしている感じがする。
- 今はまだ両親が現役であり、仕事だけでなく地域活動などもしており、何年後か自分ごと

考えたいへんである。

●どこからどこまでが仕事なのか、仕事は仕事、つき合いはつき合いと割り切れる環境を作れたらと思う。

●お客さん、近所の人に助けられながら今までやってきた。これからは勉強しながらお店をもちたてていきたい。

サラリーマン社会から比べると、時間的制約がないかわりに、公的時間と私的時間の区別がつけにくいというのも現実である。また、地域活動に参加する機会も多く、サラリーマンよりは地元に残っている者が期待される割合は大きい。

## 結婚前の理想と現実

●結婚する前は、仕事はしなくてもいいよと言われていたが、現実には店の仕事をせざるを得ない。

●結婚した時は夫がサラリーマンで、自分は専業主婦でした。三春にもどって自営業に従事するようになり、それからはなかなか自分の時間がとれなくなりました。

●実家が商売をしています。結婚するならサラリーマンがいいなあと考えていましたが、縁あって商売人に嫁ぎました。最近仕事に対しておもしろみが出てきました。



実家が商売をしていたというよりは、全く無関係のところから嫁いでいる方が多かったようです。どちらかと言えば、だんなさんにだまされたタイプの人が多いですね。自営業の場合、いそがしい時は猫の手も借りたいのを、奥さんがだまってみているわけではない。それを見込んで結婚しているのも理解してもらいたい。

## 青年部の活動について

●青年部とは経営の勉強をするところではないのですか。それともサークル活動的なものか、地域

活動・奉仕活動をするところなのですか。

●青年部も消防も若連もみんな同じではないのですか。

●青年部の支部事業に参加して青年部のやっていることが分かるようになった。青年部のつながりも大事ですが、奥さんたちの活動の場があればいいのでは。

●青年部の活動内容については、大多数の奥さんたちが分からないようでした。青年部の活動部門は、厚生委員・総務委員・経対委員と分かれていますが、その活動についてあまり奥さんに話さないというのが現状です。また活動自体も自分が何を求めてその会合に参加するかによって、サークル活動になるか、勉強の会になるのか決まるのではないのでしょうか。

## 他の町から嫁いで

### 三春町に対する感想

●三春は郡山に行くまでの通過点でしかなかった。もうちょっと活気のある町かなと思ったが、そうではない。商売するには良くない町である。

●自分の店が町の中心部から外れているせいもあるが、商店がもつとまとまりがあればお客さんが商店に目を向けてくれるのではないか。

●交通手段が車中心になっている。その割に商店の駐車場の出入りはしにくいし、町営の駐車場に



してもその位置が分かりづらい。  
●近くに子供を遊ばせる公園がない。本宮の水色公園によく子供を連れていくが、三春にもああいった公園があればいいなあと思う。

なことは、その世代の人々に視点を与えて、帰ってきてもらうことなどではないだろうか。  
◎家業を継いだり、新しく商売を始める以前にサラリーマン家庭の生活を体験した人もいて、最初から自営業の家庭に嫁いだ人との比較ができた。

どちらかといえば、子育て世代の意見が取り入れられていない町ではないかと思う。この世代の人たちが町に愛着を持たないと、町に帰ってこなくなってしまう。これから高齢化社会になるのは目に見えているが、若い人たちが帰ってこない、高齢化社会の生活を維持できないのでは。一番必要

東京などで数年間サラリーマンをしていて、故郷へ帰って来て商売を始める決断の時の話や今までの苦労話など、また、育児や家事は家族皆でできるので楽にはなつたが、自分の時間・夫婦の時間が

所へは結婚したくなかったという人もいたが、同じような仕事環境で安心できる等、仕事に対して対抗はなかったようである。後者の場合は、結婚する前は、消費者として一つの目的があつて商店へ行くが、結婚を境として売る側へと立場が変わる。色々な消費者のニーズに応えなければならぬので商売は難しい等、苦労が多いようである。

また、結婚する時に「初めのうちは商売の手伝いはしなくてもいいよ。」と言われて結婚した人も少なくないと思うが、家族の働く姿を見たり、現場から「部品が足りないから持ってきて。」と電話がきて届けたりと少しずつ家業の手伝いをするようになる。しかし夫の仕事内容を理解することができて安心できるという声も、夫の方もこうなることを打算に入れていたのではないのかなあ？

いづれにしても仕事をしていこうという気持ちは強いと感じた。  
◎思っていた以上に夫が家にいない。

青年部で行った行動調査でも解るように、消防・青年部・PTAなどの地域活動で外出することが多く、その間の家業や育児がすべてののしかかってくる。

◎青年部はサークル活動の団体なの？

青年部は、

役員をするか各委員会に積極的に参加をしなければ、ボーリング大会や新年会に出るくらいでレクリエーションをする団体と思われている所がある。

青年部の会合へ出掛けて行って遅くなったり、二次会等で酒を飲んでさらに遅くなる。遅くなるから帰った頃はみんな寝ている。寝ているから夫婦の会話もないという悪循環で誤解されている。

行動調査の結果を参考にして、団体行動はメリハリをつけて効率的に活動できるように改善しなければならぬだろう。

◎三春町は生活しやすいか。

三春町は坂が多い。駅が町の中心から遠い。欲しい品物がどこで売っているか分からない。その店で聞いても的確な答えが返ってこない。商店が連続していない等、買い物がしやすい状況ではないようだ。若者は車で郡山や船引の大

型店へ行ったり、結婚前に住んでいた町へ行って買い物をするのが気が楽にできる。さらに、子供を遊ばせる場所も近くに無くなるなど、車がなければ生活ができない町である。車を持たない年寄りなどは買い物をするのは大変な仕事であろう。

生活しやすい三春町を作るには商工業者ばかりでなく、町などと協力し合っていないかなくてはならないだろう。  
忙しい中、貴重な生きたご意見を頂き誠に有難うございました。



最初から自営業の家庭へ嫁いだ人は一つのケースがあると思う。一つは、実家でも商工業をしていた人、もう一つはサラリーマン家庭から嫁いだ人。前者の場合、同業者の





# 活力ある中心

## 商店街を目指して

総務委員 高橋 龍一

大店法の規制緩和により、ますます大型店が出店しやすくなってきました。そのような中で、改めて中心市街地、商店街の空洞化が全国各地で大きな問題となってきました。

そこで今回本紙では、三春町で進めてきている中心市街地整備、商店街活性化事業について、取り上げることにしました。

中心商店街活性化事業は、町と商工会等が一体となって取り組んできていますが、今回は第一期事業となっている上大町の進捗状況、今後の取組みの方向などについて、主に町の担当課である都市整備課に取材に伺うなどしてまとめてみました。

### 具体的な動きから七年経過

三春町が「活力ある中心商業地の形成」「歴史公園都市の建設」「都市基盤の充実した市街地形成」の三つの柱を目標に掲げた『三春町市街地整備基本計画』を策定したのが平成元年。そして大町・四つ角から南町・会下谷入り口までの重要幹線街路荒町新町線の事業に着手したのも平成元年からで、もう七年が経過しました。

この間、『うるおい・緑・景観モデル都市』（平成三年）に選定されたり、商工会自らの手で策定した『三春町商業振興ビジョン』（平成四年）などに代表されるよ

うに、町と商工会では様々な積み重ねをしてきています。そのような成果を踏まえて、平成五年には町と商工会、商工業者などの出資による第三セクター『株式会社三春まちづくり公社』が設立され、具体的な事業推進母体の一つも整ってきました。

### 街路事業いよいよ本格工事

先ず街路事業の状況ですが、上大町地区の大方の地権者の理解と協力が得られ、今年平成八年にはいよいよ工事が目に見えるようになってきます。歩道と車道の段差も8cmと小さく、車道はアスファルト舗装で、歩道は緑石や植栽帯周りも「桜」を意識した色の御影石張り。電線類の地中化も実現の方向で最終段階とか。（イメージパース参照）三春規模の町では例を見ないほどの街路が出来上がりそうです。

### 拠点整備事業大切な局面に

拠点整備事業地区として位置付けられている上大町地区については、町民センター（仮称）、駐車場、商業集積などを整備する予定となっており、町でも最重要課題として強力に推進している事業です。現在は、地権者の理解と協力を得ながら、一方では町・商工会・地元商業者有志による「事業協同組合三春浪漫設立準備会」メンバーが協力しあって、これまでの成果をいよいよ発揮するという大切な局面に入ってきています。それではどのような商業集積を考えているのか、というこ

りますが、車社会への対応などを意識しつつも郊外型店舗と中心市街地に立地する店舗との違いをはっきり打ち出し、生鮮三品をはじめとする最寄り品を先ずおさえるほか、今後の消費者ニーズも意識した買い回り品の業種を揃え、生活提案型で、当然のことながらしっかりとした経営戦略のある店の参加を募り、地域に愛される共同店舗づくりをしたいと思います。

### 中・下大町も軸として連担

大店法の規制緩和などもあり、郡山市日和田町のジャスコ、西田町のライオンドーの出店計画など、三春の中小小売店を取り巻く経営環境は、ますます厳しい状況にあります。このまま何もしないで成り行きまかせでは、ますます大変になるばかりです。皆で知恵を出し合えば、大型店の攻勢に対抗でき、そして新たな展開が可能となってくると思います。西田町のライオンドー出店計画に対する地元商工会の意見集約に際し、地元三春の学識者、消費者の方々からも地元商店街の活性化を期待する声が、多数寄せられたと聞きました。これまで以上に皆で真剣に考え、実践していく時期にきています。

そこで、今後の町の商店街整備についての考えを聞きました。町では、上大町で進めている街

路事業を中央・下大町地区にも導入し継続していきたいとしており、公共で行うこれらの基盤整備を契機として、魅力溢れる専門店などがそれぞれ力を発揮して連続した軸を形成してほしい、と考えています。美しい街並みや楽しい空間、そして楽しい店、公共施設などが相乗効果を大いに発揮して、いきいきとした中心市街地、商店街ができればと思っています。

今回の取材等とおし、現在進められようとしている商店街づくりの方向が改めて分かってきました。是非地域の人達に支持され、そして愛され、子供やお年寄りなどにもやさしい商店街をつくり、『三春の顔』としていきたいものだと思います。

二十一世紀の三春の商工業を担う青年部の皆さん、力を合わせて頑張りましょう。

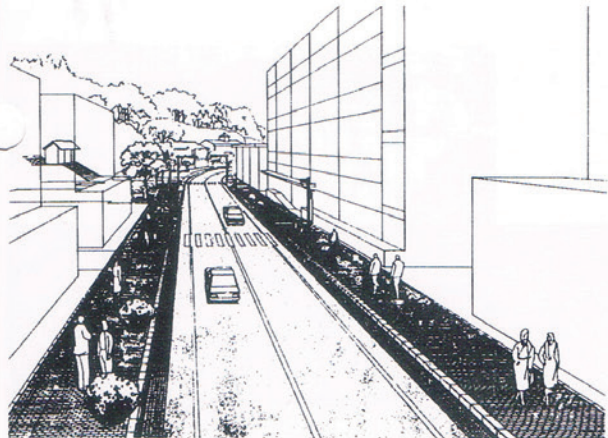
### 中心市街地活性化について

渡辺 康人

青年部の礎に街路整備にかかった体験を書く様依頼されました。漠然とした依頼なので悩みましたが、今まで携わってきた上大町整備事業のことについて考えを述べたいと思います。平成元年よりほぼ六年間にわたり中心商店街活性化について議論してきました。その中での問題点を次に述べます。

①商業ゾーンの計画の発端が、町の市街地整備基本計画及び高度化資金（無利子の資金を国・県より借りる）の二本柱だったことで行政とのかかわりが非常に強い計画となった。（制度にしばられる面があまりにも強い）。

②①の理由により商業施設の規模、駐車場等の面で商業者が妥協した面が多かった。これにより、現時点での計画は、今主流のSC（ショッピングセンター）の1/5〜1/10小さく、しかも駐車場が圧倒的に足りない形になっています。日和田にジャスコ、船引にベニマル、宮田にライオンドーと商圏50km、100kmのSCどおしの戦いの中、現計画のSCで生き残れるでしょうか。町を美しくする事は行政の力でいくらでも可能ですが、商店が生き残ることは別問題だと思えます。商業者は行政に寄りかかり過ぎてはいけません。行政には売上に対する責任はないのです。今後この計画を進める上で一番大切なのは、商業者が妥協の無い、数字に基づいた計画を持つこと。そしてそれを行政に認めさせることだと思います。





### 青年部モニュメント

#### 作成事業について

委員長 市川守男

今年度の経営対策委員会の活動に、青年部皆様の御協力に感謝いたします。

私たち年度初めに、モニュメント作成というとても責任のある仕事をいただきました。モニュメント？ どのような物なのかとてもつかみ所がなく、漠然としていて大変困りました。不安のまま経営対策委員会を開き企画会が始まりました。

モニュメント作成ということで、すから、三春町商工会とか、商工青年部などと書かれた看板のものではなく、又看板にこだわることにより郊外化している中で、町の中に目を向けてもらえるきっかけとなるような考えを基本にして、経営対策委員のメンバーに自分のプランを考えてもらいたい意見を出してもらいましたが、なかなか「これは／＼」という物が出てきませんでした。出ないと書きましたが、企画会が暗礁に乗り上げたような暗いムードではなく、皆自分の考え・意見を言い合い、活気のある企画会で委員長の私としては、ありがたかったです。

モニュメント風の時計が…。春町に合ったモニュメント風の時計が…。

メンバー皆でいろいろ意見を言い合いました結果「時計入り櫓行燈（やぐらあんどん）」と決まりました。第二回企画会までに、各

業者に見積りを依頼し予算の準備に取り掛かりました。それから又

白熱した話し合いが始まりました。

〈櫓行燈野形・大きさ〉

〈時計の形・大きさ〉

〈照明を付けたいから電気をどこから取るか〉

〈基礎はどうするか石を使うか〉

屋根は瓦の方が良いのではないかと話しが出て、経対メンバーではないのですが田中瓦工業所の田中君。銅板を切り板で張っても良い

のではないかと、吉田板金の吉田君たちにも企画会に出席してもら

い協力をお願いいたしました。

このようにして、だんだんと形になってきました。

設置場所の話し合いになった時、町に寄贈してどうか意見が出て

まして、できればその方向で進みたいとメンバー一致しました。そ

れから町役場の吉田さんと交渉に入りました。役場サイドから指摘

された面の見直しや、直接町長さんにお会いして青年部の考え方を

お話しお願いしてきましたが、ちょうどして去年の国体の時期と

重なりまして一時交渉が中断してしまいました。

国体も終わり、一関産業まつり

も終わり、それから又都市整備課へ足を運びましたが「これ／＼」と

いう場所が見つかりませんでした。そして最後に出た話しが「ひよこ」さんの跡地でした。この原稿を書

いている今でも設置場所が確定ではないのですが、その線で話を進め

ましよう。都市整備課の吉田さんも言ってくれましたので、経

対委員会では一応「ひよこ」さんの跡地で計画を進めております。

皆さんが、この青年部会報をお読みになるころは、設置できてい

ると思います。いろいろご意見がござい

ますが、経対委員メンバーみんながんばって形に

しました。ご理解下さい。経対委員会としてこの仕事を

するのではなくモニュメント作成委員会を作っ

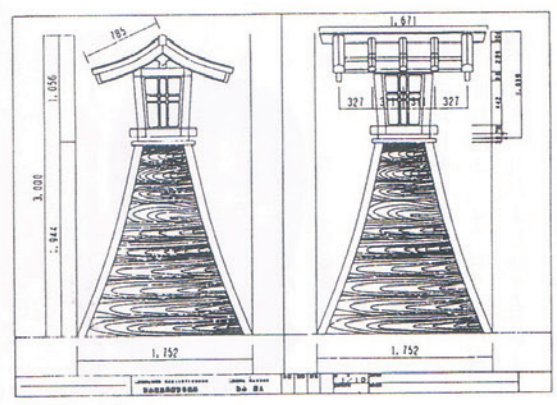
て設置したほうが良かったのではないかと少し思

いました。

櫓行燈設置に際し、皆様のご協力に感謝いた

します。又経対メンバーみなにもこの場を借

りまして、感謝いたします。



### 塾長 橋本盛光

みなさん、こんにちは。総務委員会発行の『礎』に、私達三春経営塾の為にこのように、ページをさいて頂き誠にありがとうございます。

三春経営塾は「経営の向上、改善を図るとともに、多様化する地域社会において、豊かな知識の習得を行い、商工業者間の連帯意識を強めること」を目標としております。月に一度、定例会を行い、全国的に研修会等を実施し、自己啓発に努めております。

現在、塾生は総数十六名各支部に数名ずつおります。私達は、業種や地域などの枠を越え、広い視野での、オープンな横のつながりを基盤と考えております。

三春経営塾では、『商業界』という月刊誌を定期購読しておりますが、その中に載っておりますが、『友をもつて仁を輔ける』という、論語に出てくる言葉で、

『勉強するために集まってきた友人の知恵と力を集めて、自分の仕事や生活を進めていく助けにする』という意味を持っています。

私を始め塾生においても、三春経営塾だけでなく地域の中で生活している以上、いろいろな集まりや団体に属しております。それだけにお互いの殻を破り、お互いを刺激し合い、切磋琢磨する場が必要となってくるのではないでしょう

このように、スジが通ったつきあいが出来るのが、三春経営塾だと思えます。

以上のように、熱意を持って、塾生同志公私共に取り組んでおります。

三春経営塾も平成二年に発足、一期三年とし、現在二期目も終了する所であり

そこで、この紙面を借り、第三期生の募集をおこないたいと思

います。近在の塾生の活動を見聞していただければ分かるように、非常に意義深いものだと思います。

ぜひ青年部員の人々にも、三春経営塾の主旨を御理解いただき、賛同してもらいたい

実践的行動をするチャンスではないでしょうか？自分の仕事に追いかけるのではない、自分の興味ある勉強を、自分の考えで実行していけるのです。多数の参加を待っております。

お問い合わせは、(有)橋本農機商会まで。TEL六二一五二〇〇(代)



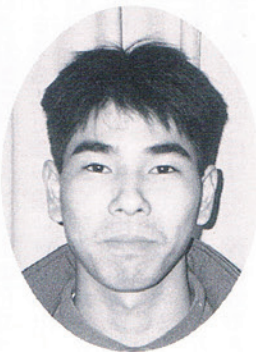
※平成八年のダルマ市の様子です。



青年部

NEW

FACE



一、根本 康一 (新町支部)  
二、根本看板店

三、昭和四十五年五月四日  
四、ドライブしたりレースを見に行くのが楽しみです。看板の事なら是非当店に御相談下さい。



一、佐久間 学 (荒町支部)  
二、(株)佐久間製材工業  
三、昭和三十二年十月十一日  
四、今回商工会に入りました佐久間です。よろしくお願ひします。



一、長谷川 亨 (荒町支部)  
二、(株)長谷川工務店

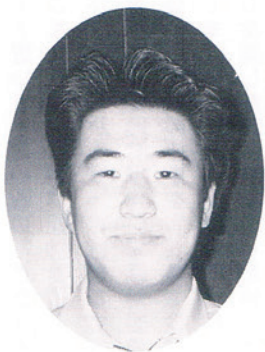
三、昭和四十六年三月三十一日  
四、スポーツなら一応何でもOKです。みなさん、スポーツを通して交流を深めましょう。



一、降矢 敏 (新町支部)  
二、美容室 ゼスト  
三、昭和四十一年十月二十五日  
四、男性の方もぜひ一度お店の方へいらしてください。



一、渡辺 太 (荒町支部)  
二、三洋自動車整備工場  
三、昭和四十三年二月二十八日  
四、昨年の九月より商工会青年部にお世話になることになりました。何もわかりませんが頑張りますのでよろしくお願ひします。



一、鈴木 勝雄 (中町支部)  
二、(株)鈴木石材街  
三、昭和四十七年三月十七日  
四、商工会青年部中町支部にお世話になっております。石に関することでしたら、どんなことでも御相談に応じますので、どうぞよろしくお願ひします。



一、渡辺 直紀 (大町支部)  
二、桃太郎  
三、昭和四十年六月二十一日  
四、大変な時期ですが、皆様と共に勉強していく次第です。

プライバシー保護



# 事業報告

## ◎献血の協力実施

月日 平成七年五月二十五日  
 協力者 村田信一・赤井幸夫  
 柳沼久勝・清水健一・大内浩幸  
 大内光夫・松本充弘・浦山謙一  
 横山紀幸・単田和美・渡辺辰夫  
 大内幸一・松本哲朗・渡辺清平  
 渡辺康人・宇野沢建夫

参加して下さった、部員の皆さんのご協力に感謝いたします。

## ◎第八回田村郡商工会青年部

ゴルフ大会

月日 平成七年六月二十二日  
 場所 大玉VIP  
 カントリー倶楽部  
 参加者 松本充弘・伊藤三男  
 浦山謙一・幕田勝浩

郡青連ゴルフ大会に参加して感じた事は、日頃、交流のない他町青年部員の方と楽しくプレーする事ができたという事です。好プレーあり珍プレーありで大変盛り上がりしました。次回は優勝をとは言わないまでも自己ベストを目指す位の勢いで我が三春町部員もがんばって参加しましょう。

幕田勝浩

## ◎田村郡商工会親善

ソフトボール大会

月日 平成七年九月十三日  
 場所 小野町運動公園

多目的グラウンド

試合は小野町で九月十三日に行われた。都路にはおしくも一点差で敗れ、次に常葉とあたったが、そこでハブニング。なんと消防団幹部に、火災発生のポケベルがピーと鳴り響いた。ほとんどの消防団員は大あわて。試合は大差で常葉に勝利。

村田信一

## ◎国体歓迎旗の設置協力

月日 平成七年十月五日



国体の旗立てをして、その日一日で町中に旗が立ち並び、それまで国体が始まるという実感が湧かなかつたが、もうすぐなんだと感じた。とても有意義な日だった。

吉田雄一

## ◎工業部会主催産業

フェスティバルへの協力

月日 平成七年十一月五日  
 場所 三春町営運動場

商工会会員の相互交流を通して労働福祉の向上を図り、合わせて地域活性化に資することを目的とした第二回産業フェスティバルみはるは、各協賛団体や青年部の皆様の御協力で無事終了致しました。楽しい一日を過ごす事が出来ました。

鈴木茂 商工会事務局長

## ◎一関地方産業まつり参加

月日 平成七年十一月十日

十一月十二日

一関産業まつり参加も？回目を迎え、今では三春の特産品を心待ちにしている人も多く見られる様になりました。また生活改善グループの協力で特産品も多彩に揃い、とても好評でした。産業まつりの楽しみは、なんとといっても帰りのバスの中だったのではないのでしょうか。

渡辺清平



## ◎青年部親善ボウリング大会

月日 平成七年十一月二十二日  
 場所 ダイマツボール

- 団体優勝 北町支部
- 個人優勝 村田信一
- 二位 湯浅勉
- 三位 増子智子
- 四位 熊田正美
- 五位 土棚和典

今年のボウリング大会は、北町支部の安定したボウリングが光り団体戦を制しました。家族や恋人を連れてきた人も多く楽しい雰囲気の中でプレイできたようです。



## 編集後記にかえて

総務委員会副委員長 高橋 龍一

孫子の兵法を一つ 兵法は詭道なり”これは戦国合戦の基本だ。とにかく戦国合戦というのは全部だまし合いだ。合戦をしなくても、謀略をもって攪乱戦術をとる。

北条早雲は、戦国の梟雄と呼ばれ、国盗りとも呼ばれた。一介の浪人からのしあがったために、そういう言い方をされた。そして、かれの国盗りの戦法は、ほとんど孫子の兵法を活用していたと言われる。はじめ、かれは駿河国にいた。小田原に進出するのにこんな話がある。当時小田原には、関東管領扇谷上杉氏に属する大森氏頼という武将がいた。しかしこの氏頼は、そうとうのしたたか者で、箱根の山を越えて早雲が小田原に進出することを許さなかった。ところが、この氏頼が死んだ後を継いだのは藤頼という息子で、世間の評判で聞くと、父親ほどではないという。「機会がきた」と早雲は喜んだ。そこである日、藤頼のところへ鹿を出した。「北条早雲が、鹿狩りをおこないましたところ、鹿が箱根の山奥から小田原の方へ逃げ込んでしまいました。申し訳ございませんが、そちらへ行って鹿をこちらに追い返したいと思っております。どうかお許し下さい」といった。藤頼は、父ほどの警戒心がなかったので、「鹿を追うくらいならいいだろう」と許可した。この藤頼の言葉を楯に、早雲はいっせいに自分の軍勢を箱根の山に入れた。そして山を駆け下りて、小田原城を攻撃した。大森藤頼は討ち取られ、城を奪われてしまった。以後、北条早雲は五代の間小田原城に拠点を定める。みなさん、うかうかしてはいられませんな。

合掌